

<様式>

学校名	山形市立第六中学校 山形市南原町二丁目 3-55 TEL 622-0314 FAX 633-9803	校長	栗田 和真
		研究主任	岩田 恵美
研究主題	自らの学びを創る生徒の育成（3年次） ～協働的な学びの場の工夫から～		
研究主題設定の理由	<p>本校は学校教育目標「気づき、考え、進んで実行する生徒の育成」を掲げている。また、令和3年度より実施された新学習指導要領では、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけることを目指している。このような資質・能力を、「主体的・対話的で深い学び」の学習過程を通して育成するとともに、生徒自身が学ぶことの意義を理解し、主体的に課題解決に取り組み、自らの学びを調整しながら学びを進めることのできる生徒を育成することは、本校の教育目標の実現に直結する課題であると考え本研究主題を設定した。</p> <p>研究主題にある「学びを創る」とは、他との関わりの中で学びを深める姿、新たな課題を設定する姿、自分自身をメタ認知し自己肯定感を向上させたり学びをスタートさせたりする姿をイメージしている。</p> <p>昨年度まで、「主体的・対話的で深い学びを生み出すための学習過程の工夫」「目指す資質能力の育成のための、妥当性のある評価の仕方と評価規準の検討」「自らの学びを把握し、授業と家庭学習をつなぐ振り返りの工夫」を研究の柱として進めてきた。その結果、評価規準を明確にしたことで、つけさせた力を身につけるための授業を行うことができたという教員側の成果や、評価基準の明示により生徒の意欲向上につながる成果もあった。</p> <p>しかし、振り返りシートの記入形式や見取り方、負担感についての課題が残った。また生徒の実態として、ここ数年の学習環境の変化のためか、生徒の関わる力の低下や、根拠をもって説明する力の不足を感じている。これらの課題を含め、研究3年目の今年度は「協働的な学びの場を工夫することにより、自分の学習を調整することができる資質、能力を育成する」ことを目指していく。</p> <p>以上の理由から、今年度は次の目標を設定して研究を進めていきたい。</p>		
研究の目標	<p>目標1) 協働的な学びの場を工夫することにより、教科の資質・能力や、自分の学習を調整することができる資質・能力を育成する。(学習過程の工夫)</p> <p>目標2) 妥当性と信頼性のある学習評価により、生徒の学びを適切に評価することで、資質・能力の育成を目指す。</p> <p>目標3) 「個別最適な学び」の実施や、「まとめと振り返り」の工夫により、自分の学びを把握し主体的に課題に関わる生徒を育成する。また授業と家庭学習のつながりを意識し自立した学習者の育成を目指す。</p>		
研究の	<p>目標1) について</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働しながら、教科等の資質・能力を育成する。(2) 生徒が課題解決の過程を自ら計画することができるよう、課題設定を生徒に任せる単元や場面を取り入れる。(3) 授業の中で、思考する場面や対話により考えを深め合えるような場面を設定する。思考を深めるための思考スキルや、根拠をもって説明する力の育成を模索する。(4) 学習課題または目標を吟味し、明示する。(5) 思考を深める場面や、理解を進めるための ICT の活用方法を模索する。		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">内 容</p>	<p>目標2) について</p> <p>(1) 学習活動の1つ1つが、どのような成果をもたらしているのかを明らかにする。</p> <p>(2) 教科で育成を目指す資質・能力が育成されているかをどのように見取るのか、学習指導要領の3観点にしたがって、評価規準・基準、方法、機会を検討するとともに、生徒の姿をどう見取るのか、教師の見取る力を向上させる。</p> <p>(3) 特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については「①粘り強い取り組みを行おうとする側面」と「②自らの学習を調整しようとする側面」の2つの面について教科ごとに具体化し、評価できるようにする。</p> <p>(4) C評価の生徒をB評価に引き上げるための手立てを考え、授業実践後に教科のなかでその妥当性について話し合う。</p> <p>(5) 評定に用いる評価資料について、その評価基準が妥当性と信頼性のあるものとなるよう教科担当者間で共通理解を図る。</p> <p>目標3) について</p> <p>(1) 振り返りシートの「まとめと振り返り」について「目的や場面、どのように見とる」と「自分事として課題を把握し、関わり、学びを調整する力を高められるか」を教科で話し合う。また、教科間でシートを共有し、教師にとっても生徒にとっても負担感なく有用感のある活用方法を模索する。</p> <p>①目的について 生徒にとって：学びを深める、学びを俯瞰する、つなげた学びを言語化することでさらに認識を深める、など。 教師にとって：授業改善、評定への活用、など</p> <p>②工夫について 振り返りの視点やキーワードの提示、学びの見通しを持たせるための工夫など</p> <p>(2) ICTの活用や指導方法の工夫により、「指導の個別化」と「学習の個性化」を目指す。</p> <p>(3) 学びの道筋を把握し、見通しを立てさせる場面を単元の中に取り入れる。</p> <p>(4) 授業のまとめや振り返りを生かした家庭学習の充実を図る。特に、テスト計画表の調整については、テスト1週間前に学活を位置づけ実施していく。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研 究 の 方 法</p>	<p>(1) 週1回の研究推進委員会で、研究についての話し合いをもち、提案する。 教科部会を年に7回開催し、研究推進委員会の原案をもとに、教科主任を中心に同一步調で研究に取り組んでいく。</p> <p>(2) 年間一人一回以上の授業実践を計画し、研究主題に迫る。研究授業の際には、教科部会を複数回設定して事前研究会を行う。研究授業は教科担当者全員で提案する形をとり、授業づくりに関わる。校内授業研究会当日に事後研究会を行う。道徳・学活は隔年で大研を行う。</p> <p>(3) 教科ごとに、研究の目標に迫るための具体的な方策を設定して実践する。</p> <p>①一時間や一単元の見通しをもたせ、一時間や単元の適切な場面でまとめと振り返りを行うという共通実践を行う。 (「主体的に学習に取り組む態度」を評価するための1つとして、教科として適したまとめと振り返りを研究し、教科全体で統一したものにする。)</p> <p>②ICTの有効な活用については、授業を参観できる機会をつくり、多くの先生が授業に活かせるようにする。また、実践した内容、成果、課題等を記録し次へつなげる。</p> <p>(4) 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国研)をもとに、各教科で育成を目指す資質・能力と目指す生徒像を明確にし、評価の計画を立てる。授業研の際は、単元の計画に評価計画と、評価基準を示す。C評価の生徒をB評価に引き上げる手立てを指導案に記入し(可能な教科はB評価の生徒をA評価に引き上げる手立ても)、授業実践後に教科内でその妥当性について話し合う。</p> <p>(5) 授業と自主学習のつながりを示し、終わりの会で振り返りを生かした自主学習を計画する取り組みを、学校全体の共通実践として行う。(学習指導部と連携して教科ガイダンス資料を作成する。)</p> <p>(6) 学芸委員会で「学習ルール」の徹底と「家庭学習の充実」を柱として活動を行う。 1学期と2学期後半にアンケートを実施し、成果と課題を把握する。また、複数年のアンケート調査結果との比較を行うことで、本研究課題における研究の成果を見定める。</p>

研
究
の
計
画

《年度初め》

- ・各教科で、評価規準、評価基準、1学期分の評価計画と評価基準の検討（4月4日 教科部会②）
- ・今年度の校内研究計画の共有（4月7日 職員会議）
- ・生徒総会にて学芸委員会の取り組みの提案（5月1日）

《1学期》

- ・1学期分の評価計画と評価基準の確認（1学期分）、授業者の決定（6月5日 教科部会③）
- ・一人一授業の指導案形式を研究推進委員より提案
- ・第1回学習アンケートの実施

《夏休み》

- ・協働的な学び または、思考ツール についての校内研修（7月31日）
- ・教科経営案の決定、小研の授業検討（7月31日 教科部会④）
- ・小研の授業検討、2学期分の評価計画と評価基準の検討（8月18日 教科部会⑤）

《2学期》

- ・一人一授業（授業研を行う教員以外も、1人1授業として、一回は指導案を作成して教科担当者に配布し、授業を行う。11月までを目安に各自設定）

・ **第1回 校内授業研（小研）9月13日(水)**

予定教科：1コマで3教科（国、理、技）教科担当者参観。

事後研の時間に、大研担当教科は指導案検討

- ・小研の振り返り、大研の検討。（10月20日 教科部会⑥）※学活は学年部会等で検討

・ **第2回 校内授業研（大研）11月8日(水)**

予定教科：1コマで5教科（社会、数学、英語、保体+学活）

- ・大研1の振り返り、一人一実践の振り返り、3学期分の評価計画と評価基準の検討

（12月22日 教科部会⑦）

- ・第2回学習アンケートの実施

- ・今年度の研究の成果と課題を「一人一実践」にまとめる（12月～1月）

《3学期》

- ・今年度の研究の成果と課題提案
- ・研究紀要の発行（3月）

<その他>

- ・年間を通して、ICTの有効な活用授業について実践を重ね、記録していく。
- ・今年度も、研究推進委員会、学習指導部、ICT推進指導部、自主的に実践を試みて頂ける先生方が中心となって進める。